

準備するもの

●猫ちゃんのお気に入りのカリカリごはん(ごほうび)

猫ちゃんの健康に配慮して、1日のご飯の量から10~20%を取り分けてトレーニング用としてご使用してください。

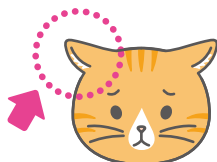


注意すること

猫ちゃんの緊張のバロメーターに注目しながらトレーニングを行ってください。

●耳の向き

不安になると、耳が後ろに倒れていきます。



●「ごほうび」を食べられるか

不安になると、お気に入りのごはんであっても食べられなくなってしまいます。

トレーニング中に耳が後ろ向きに倒れていて、お気に入りのごはんを食べないときは、トレーニングが猫ちゃんにとって嫌なことになっている状態です。

その場合はすぐにトレーニングを中止してください。

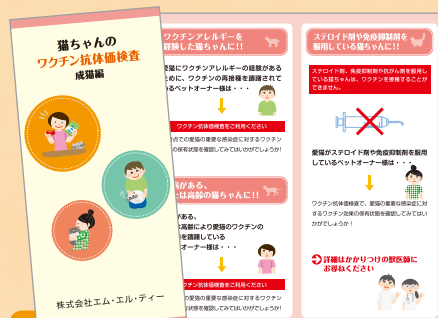
猫ちゃんは嫌なことに関する記憶力が良い動物といわれています。一度嫌なことと認識してしまうとトレーニングが進まなくなることがあります。

トレーニングを楽しい遊びと認識させるように、耳の向きと「ごほうび」を食べているかを常に注目して、トレーニングを進めてください。

◎「猫ちゃんとの楽しいゲームトレーニング」も必ず並行して行いましょう!



株式会社エム・エル・ティーでは、
猫コロナウイルス抗体検査、
猫のワクチン抗体価検査に関するリーフレットを
ご用意しております。



猫ちゃんのワクチン抗体価検査 成猫編



猫コロナウイルス抗体検査



子猫ちゃんのお通院トレーニング 全5種

子猫ちゃんのお通院トレーニング
サイトは
こちらから



動物病院名

猫ちゃんと楽しく動物病院に行くために



子猫ちゃんのお通院トレーニング

動物病院に慣れよう!

その① 猫ちゃんを動物病院に連れていく前に

準備編



トレーニングは、猫ちゃんにとって、辛いこと嫌なことの強制になりませんか?

まずは「猫ちゃんとの楽しいゲームトレーニング」を読んで実践していただき、猫ちゃんが飼い主さまとトレーニングすることを楽しめるようになってから、「通院トレーニング」を始めてください。トレーニングは猫ちゃんと飼い主さまとの楽しい共同作業です。より一層飼い主さまとの「きずな」を深めていくことにつながるとともに、猫ちゃん的好奇心をくすぐる楽しい遊びになります。



トレーニングを進めるうえで参考になる情報を掲載!ぜひご覧ください。
▼坂崎 清歌 先生(Happy Cat)の

●リーフレットをご覧いただいている飼い主さまへ

- このリーフレットで紹介しているトレーニングは、ちょっと難しい内容となっていると思います。まずは、猫ちゃんとの日々のトレーニング(遊び)を通じてコミュニケーションを取っていきましょう。
- そしていずれはこのリーフレットにあるような、生活に必要なトレーニングにも取り組んでみてください。「ゆっくり、焦らず、猫ちゃんペースで、お互いが楽しく」取り組むことが大切です。

監修 坂崎 清歌 先生 (Happy Cat)



ホームページ
<https://happycat222.com/index.htm>

ブログ
<https://happycat222.com/blog/>



本トレーニングは、キャリーバッグでの移動のトレーニングと並行して行ってください。
キャリーバッグでの移動のトレーニングにつきましては、猫ちゃんと楽しく動物病院に行くためのリーフレット『子猫ちゃんの通院トレーニング キャリーバッグに慣れよう!』をご参照ください。

\自宅でする!\

来客(知らない人に慣れる)トレーニング

このトレーニングは飼い主さまだけではできないので、
知り合い(お客さま役として)に協力してもらってください。

**子猫ちゃん
の場合は**

子猫ちゃんでも来客の苦手な子は、成猫の来客が苦手な子と同様に②③へ

① へ

知らない人が苦手な
インターフォンの音が嫌いな
**成猫ちゃん
の場合は**

②・③ へ

知らない人が苦手な
インターフォンの音は大丈夫な
**成猫ちゃん
の場合は**

③ へ

① 子猫ちゃんの場合

- お客さまに、「ごほうび」をあげてもらったり、遊んでもらったりしてください。
▶はじめは猫ちゃんに触らないように、お客さまにお願いしてください。

- 慣れてきたら、猫ちゃんにちょっと触ってもらい、すぐに「ごほうび」をあげてください。声掛けも忘れずに!
▶「触る」→「ごほうびをあげる」の順番を間違えないでください。



- 「猫ちゃんとの楽しいゲームトレーニング」でできるようになった「ハイタッチ」をお客さまもしてみましよう。
▶この時はいつもより上手にできなくても、猫ちゃんが挑戦してくれたら「ごほうび」をあげます。

② インターフォンの音が嫌いな成猫ちゃんの場合

インターフォンの音が嫌いな成猫ちゃんの場合は、最初にインターフォンの音嫌いを克服してから来客(知らない人に慣れる)トレーニング③を行います。

- 可能な限りの知り合いにお願いして、来客時にはインターフォンを鳴らさずに(スマートフォンなどで連絡してもらい)家に来ってもらうようにしてください。
- 家族が帰ってくるときだけ、わざとインターフォンを鳴らしてください。

何度も繰り返すうちに、今までは「インターフォンが鳴る」⇒「知らない人が来る、または家族がどっかにいってしまう」といった理由でインターフォンの音が嫌いだった猫ちゃんも、「インターフォンが鳴る」⇒「家族が帰ってくる」になることで、インターフォンの音に対する意識が変わり、インターフォンの音を気にしなくなります。

③ 知らない人が苦手な成猫ちゃんの場合

- お客さまには猫ちゃんを見ないようにしてもらってください。
- 飼い主さまが猫ちゃんを安全な場所に誘導し、「ごほうび」をあげてください。
▶お客さまがいる間は、同様に「ごほうび」をあげてください。
- 何回か繰り返しているたびに、自然と猫ちゃんがお客さまのいる部屋に出てくるようになります。
▶猫ちゃんが顔を出しても、お客さまには猫ちゃんを見ないようにしてもらってください。



- お客さまの近くに猫ちゃんが来たら、お客さまに「ごほうび」をあげてもらってください。
▶その際も、猫ちゃんを見ないようにして「ごほうび」をあげてもらってください。



- 猫ちゃんが、お客さまのもっと近くにきた時に、初めてお客さんに猫ちゃんのほうを向いてもらってください。お客さまと猫ちゃんと目が合ったら、ゆっくり瞬きしてもらい「ごほうび」あげてもらってください。

①、③のトレーニングとも可能な限り何度もいろいろな知り合いにお願いして、トレーニングを繰り返してください。知らない人が苦手な成猫ちゃんの場合であっても、時間はかかりますが、いずれは知らない人に慣れるようになります。

- 猫ちゃんがお客さまに慣れたら、「猫ちゃんとの楽しいゲームトレーニング」でできるようになった「ハイタッチ」をお客さまもしてみましよう。
▶この時はいつもより上手にできなくても、猫ちゃんが挑戦してくれたら「ごほうび」をあげます。



「動物病院に慣れるトレーニング」での重要なポイント

「動物病院に慣れる」=「病院という場所に慣れる」+「知らない人に慣れる」です。病院に慣れることは病院でないとトレーニングできませんが、知らない人に慣れることはご自宅でもトレーニング可能です。また、知らない人に慣れている猫ちゃんは、災害時の保護率が高くなります。

